

門二二
號
卷

增補算法疑抄 四之卷目錄

世間誤り之部

蕎麦取之定法

桑取之定法

孟乃坪法

木挽通引之算

縦横屋敷通

勾股換

曆算換

曹元理が事

趙達が事

又更坊源性が事

安治晴明が事

時之清之事

氣美古事の事

いろは目付の事

增補算法

と曹元記と云ふはく
食と云ふはいとさうか
に我東の元小米
おろして是等事なや
まうしはま而考たしひ
と中と云曹元記合著
と云つて十たびつてん
して云つてとら後小を
と云つて小ま合もはる
事おろしてさうも知の
困中と米と云ふ不足あり
是の依り内小又あり氣
その空へ米と入くるとい
と云つて米と入るや
奇妙の事にあると云

先方き人と米合百坪又方き人と或る
除く五寸是と米合貳拾五坪是とを百
坪の内小く減く上積七拾六坪是とを平除ハ
八寸六分五厘是と一方米八寸と米四寸二分三
厘と或は四寸二分と米合拾八坪七合五夕
と或是とを内中減く上積五拾六坪貳合
五夕と或是とを平小除ハ七寸五分と是中
の寸知又方き人と米合とく百坪是と
右七寸八分と米七百五拾坪と或是とを方
法は三とと米三百貳拾四坪七合六夕と或
是とを平小除一百〇八坪貳合六夕是法知

我東雜記小のてうと
とらうい人の心をまぬ
由一やや記と云く其例の
奇妙小つて入るう今是
と云ふは小と云て彼曹元
記の五双の考ゆくと云
く云ふは他もと云てい
ても不其の仁との境と
知べして云はぬの事と
いふとくそんく書つてあ
らうと云ふのむいといふ
が傳おゆく今時の元乃
振ふいたとい何るに何る
と云ふは米の依入るや
かひてより我東事ふと云

平坪小坪は百坪余小坪は分法知と
は義ある昔はは見えたりと云はれは
せろ小も右と見えたりと云はれは
して是と云ふと云つては得は日の家板
書小かやくは術と云ひらさうと云は
す一や又の及小も知と知とせよ知と
とら或は知とせよ是と云ふと云はれは
や水といふとぬ事と云ふと云はれは
知り人事と集出と云ふと云はれは
にともやかん 同云彼右と云は
知らるははと云はれは 昔と云はれは

とふ人の九ヶ年いふと
へ玉中にふる由の教ど如
とらへ申すけりり龍英のそ
えんなどらへと奇妙のやう
にひひきいしりるが連年の
幼老かやと申へや言書の
人とと歴あるれいと文
ふとふまものぶりにふと
なましくの安いさした耳小
もやさる侍ふらりぬ奇
ちれおふ佐重のまらふ
と絶とよびにこそるべ

とふ人の九ヶ年いふと
へ玉中にふる由の教ど如
とらへ申すけりり龍英のそ
えんなどらへと奇妙のやう
にひひきいしりるが連年の
幼老かやと申へや言書の
人とと歴あるれいと文
ふとふまものぶりにふと
なましくの安いさした耳小
もやさる侍ふらりぬ奇
ちれおふ佐重のまらふ
と絶とよびにこそるべ

わし物ありと云玉取いしりくもさ也
此小玉法安御の知者二人わし二角
三人のい之根に書けり是とも此流
いりて我流が持といかきとさる物
此より方後と云地法湯小たとたり
日月とこまにほくろくしえきるに
平巻小えゆり是と湯とて平巻
乃法七九と用りけりり角方と地と
法小たととらりけりり角方と地と
ゆくも南方あるとのい此の物と地と
てふるにふく自由ありて法と定物あり

むくし徳倉のれ家軍
乃中代に在夫坊源姓と
つとものあり幸い此個小何
ぶして是士を志の財源整ふ
とらりり傷ふ大才ゆく能
と申とていふ此大師義之と
もそのひまきく自後せり侍と
此論乃よまはくれ家の
所結とをくけく夏東一ト
てまこしきりそりて
後世の流い南時を双と
田次里坪乃つとらりり低
長短のこま眼力乃かふ
不才すもたがらんとをり
人とはとてまきり

此の日月乃の平巻よん也とて
何れどとら玉乃のれ成ものう堂成物也
正不知是是と人毎に此流い想し我流
いよとてとて是とて安御乃の秘を成人乃
と事也此理と不知人のいりりあり此
此とてらにさりやう小切とらりり難
中はくいふしわらひい何根小いらり切
とも安法乃たどか知る人の自由
自由小切ものいれ小書付か及む
たとい我法と付たりとも人乃法に
不才い我法と想らり物とせら玉法

あつとて奥州保連那に
境目のお湯あつくそのま
換のたり源姓とつらま
きらにその収束あつなく
おはとあ川はつづくにと
にまぐねと一見せむと
かまひうこにとむさけ
る下に日まをまをうり
まひひらうのまをうり
て名ごうごやとかまひ
素内一なるにを信一人
わうて名いあんおくうり
竹たりさくあつ一の信
あうりうく乗飯と炊
かしの葉にうりて秋の

み分一ともと五六二五とらふもは我法
四九とて用也は四九にともか理
る純心の方わくお後とよ細小
まは四九三〇にありともは我法
源小史一も一たとい人拾人あつま
べ八九人をたとりんといといり
まをまの人のをわくいとと
も又おたとい百人中人集うん
ても不細のくとも益あり
者正法小五比法場と入観後
れかしたまともと理かとつら

つとてたまけたり秋
もまぐ種く入法のと
法むるにまその奥義
とわんせりおまお信
つみやうの我は是下
の善作あり樹の葉
とまぐ洞中のあま
かつこまも理とつく
うりなんたといは極大士
のめひたといは源姓の善
とつらも理とつく
かまごまにわかか
る源姓をて
してあやうか荒涼の
ままはまに井の海

地中居くまとまのま
魚杖良刻融分をま
どく人やまともとつく
大地福たりてまのま
まのま法とまのま
手が善神のありとい
の目小まのまのま
者見関すまのまのま
は四九三〇のまのま
扱心の方わく相法と
まは四九三〇のまのま

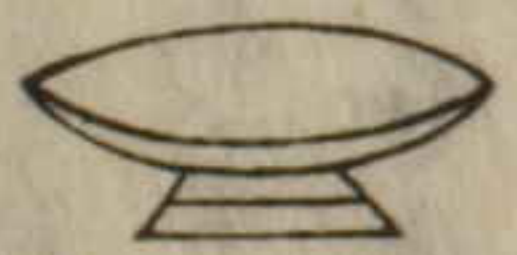
ねんくく傳授とのぞき進
い末世のト根小かえんてい
さうにさづけられた神術
なり今いさくかてかま
とまめらるやどに三杯して
こまきそれより極念小か
一ア根家乃仰前中くけ
よのざらと中よけれけれ
家とてあひも悟ともこひ
来さうのや誠交まは
糸さうのにむうさ進たう
んくくさして奇特の神感
もあうりたるとけりか
てうの傍でたづひらさる
小かさうことある人あうり

ら進たうとく彼今村う原号乃理
口義をいさわらん法を中か
と相違せらけ根源書面小わ
るま進ども又流動乃美士との知
般小もくれし自身乃足之小ら
なえんもいさうさうへ世間乃美老
まちく小知得も理さけの
玉法又まばきさうの秘する心ゆと
場ざらと泥し四分う足之乳本
理とのせさるものあら根出源
中乃方くハ五き小知と付ら

ほろくめん

今是と評其松崎乃傍
い放下の上より魔法の
ゆ若成なり源性まこと
々々々傳交とを々々々
魔法乃をう美術乃を
ふりひがう源性か
まんふくさ火にえ物の
際早小くあやふ高時
我悟乃根若わりとつた
かやう乃美仁小わん事
なまの源性かもの色の
ままのへりたうさか
事ほくくさかさうさ
まつらんさう今推考と

考考つて然但極表ハウリか
落乳車一乃さ也
或人言を世間と美老血乃評法也
と出ささい



括渡六寸
法三拾六寸と懸合
今半式合口夕
源さきすと懸之評三拾六寸
法口之とさうけ拾五坪五合八夕
と今半式八二七とさうけ
如けしわさうさうさう物い定法
分さう

えぬつものもわが中
のくさくさくさくさく
あつりにいひおたま
やんしきききききき
そらにわきまをたま
板筋のききききき
くろびと折くもさく
こいやまーかりんこ
さうーいさのきき
うなづききききき
笑飽たまうやいそ
やめたたまうんこ
おとたききききき
うちさききききき
ききききききき

あつりかきききき
武る本きききき
寸角のゆる本きき
にきききききき
ききききききき
えたよすききき
ききききききき
寸とききききき
ききききききき
武令ときききき
八きききききき

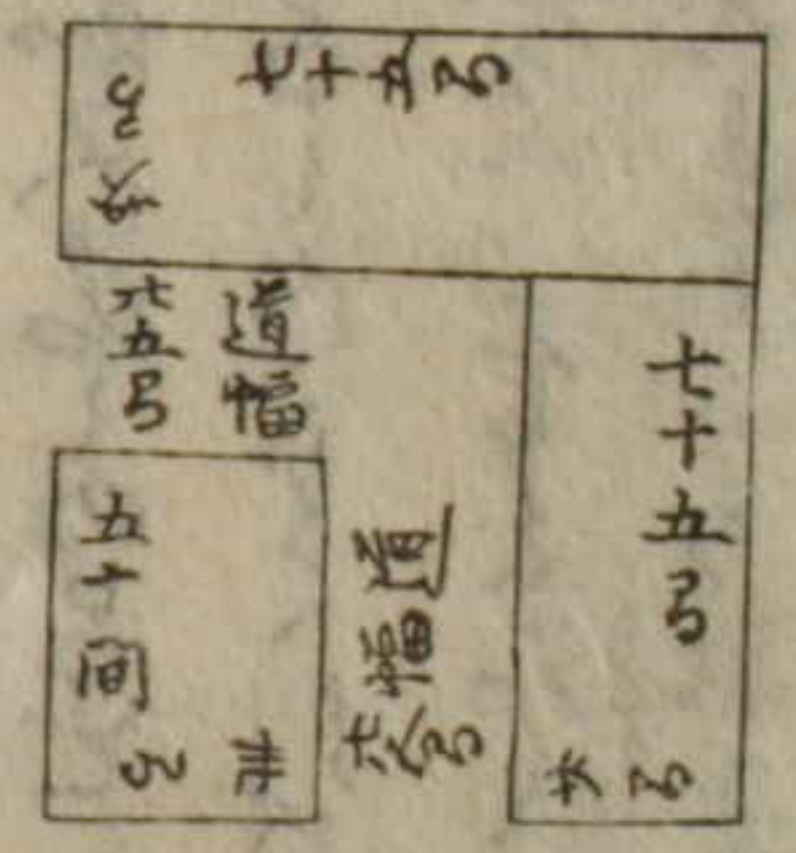
今きききききき
をたききききき
う介法きききき
ききききききき
つんとかききき
申のききききき
ききききききき
ききききききき
ききききききき
ききききききき
ききききききき
ききききききき

け義いん ききき
ききききききき
ききききききき
物小ききききき
ききききききき
けきききききき
けきききききき
けきききききき
けきききききき
けきききききき
けきききききき
けきききききき

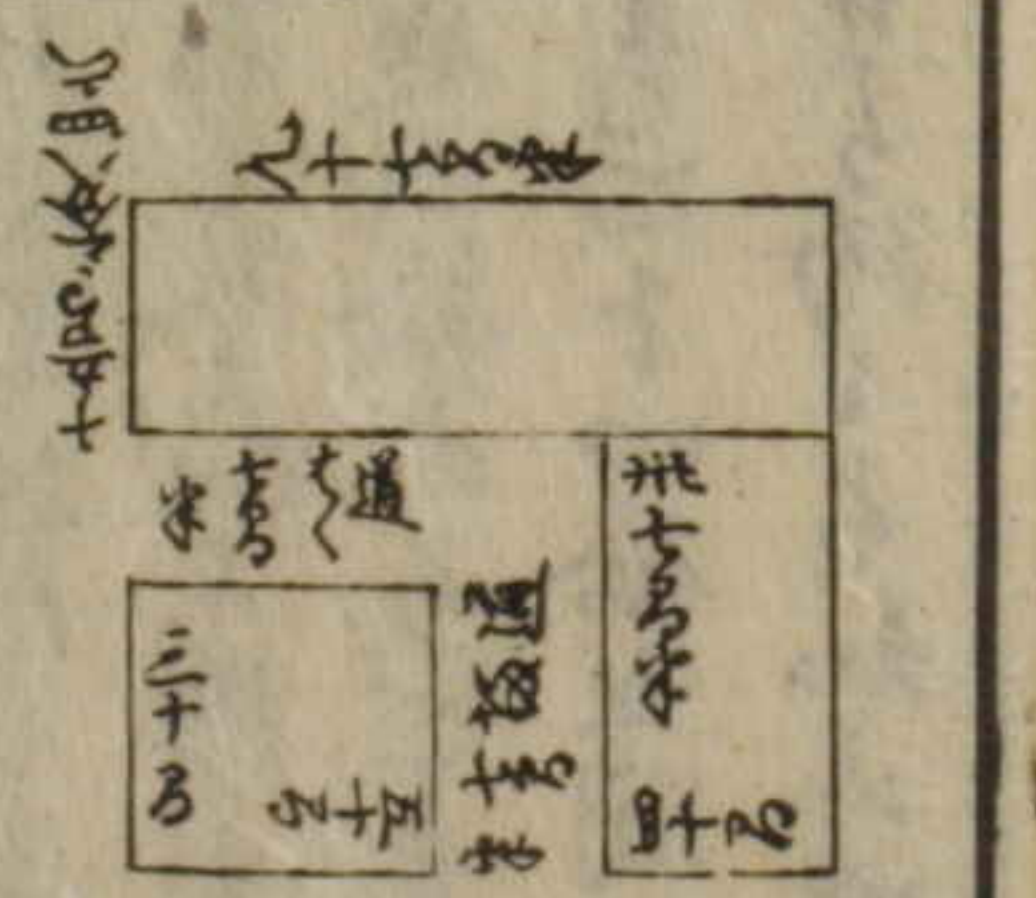
ありては虎の尾とらうと
 つて是の時に吸くか
 又壺囊抄の流るる野
 山東禅流の寛海の流る
 芒提の論一と至二十五番
 満を尋文以千冠を以果
 也千の刻の第九流の八日
 あり也一廿九と吹り未冠
 い亦八流の阿阿の由一亦八
 と吹申刻の亦七流の家七
 ありが由一七と吹り酉刻
 と亦七流の亦七流の亦七
 由一七と吹り戌刻の亦
 流の亦七流の亦七流の亦七
 吹り未刻の眼耳鼻舌の

は流あり善賢又殊観音
 弥勒の口善流あり是と
 合の一刻也一亦七と吹り
 九八七六五の心と舌合
 けりるは八流九流
 一七流一掃九八の六流一掃
 九八七の五流一掃九八七の
 眼耳鼻舌の四流九八七の
 六五と掃也とくは流十二
 時の標の枚の事とらうは
 舌吹とらうは心と舌吹十
 二時とらうは自一至十二
 又枚の満とらうは十と掃
 べきは九乃満枚の心
 下とらうは心とらうは

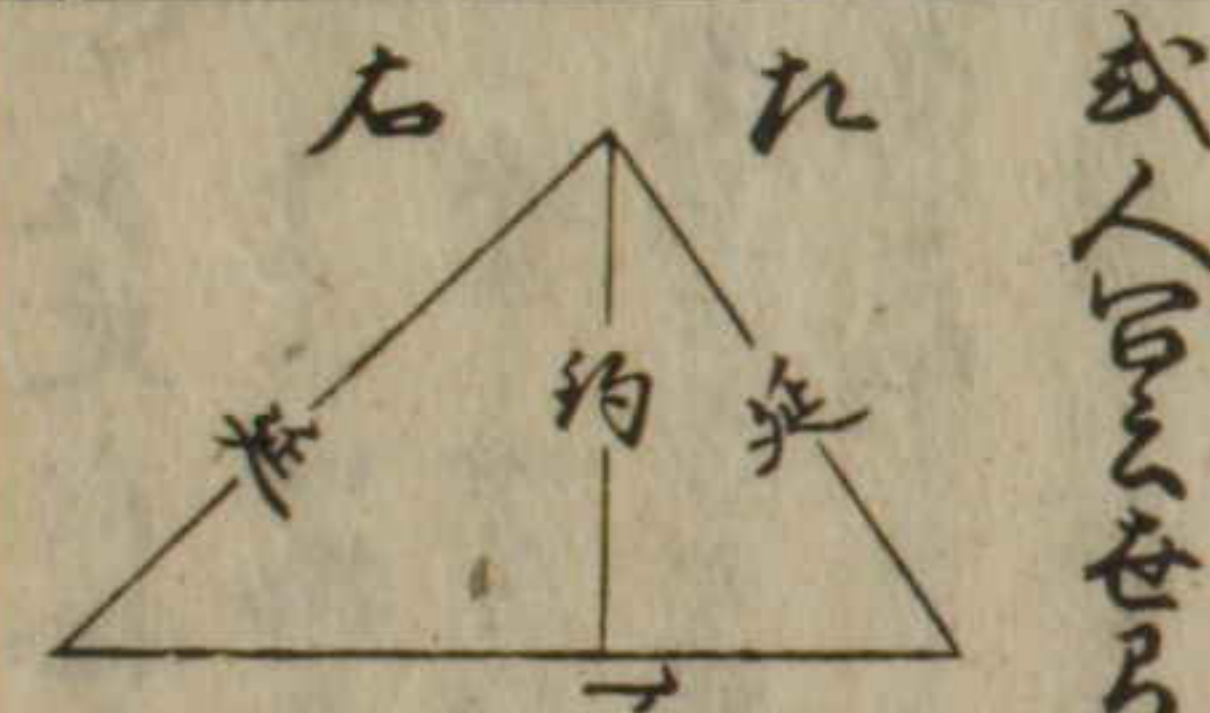
幅の女のたどわけ坪号分は三人
 中道幅女五五五と流るのら枚と台



又云七九拾七五半換八拾貳五八八
 也七六系の女小道幅七五半換八
 とわけ坪号分三人と分つと
 三人前と坪枚
 千五百坪宛



是と云くは女のよとら
 高くと流ては二色大
 けと付のどく流てら
 定法又も是時ハ流法
 云知との也



或人言とせらるは安老句股換の術とて流は
 右の方延下らるは方延下る
 いたるは延約下らる
 坪号宛宛
 右の方延下らるは方延下る

後つとく事につきては
少古事也也
艸本子にいよく至正し未
年中に准のわつど
龍擁集も事山あど
尾と尾とねふくくはと
よりい東とまきて
廣にまの事龍教十
洞庭湖とより四
つとくく事龍教十
くく活ま漢とまそ人
のゆくやたによびま
のうくくくにちがみそ
羸弱ぢるものやそ及
びまぐに斃るま

け義ゆ夕 号ふけ仁い小次生と
らまたまごしと四五のうのにま
ぢり定法とくも弁の小次生
定法とくもえまら中れと
かひとくもにまらと釣強合く八
股強合く九と二口合拾七と
法と用らまた家と相え
六分のうくもひ小次小ぢり
列乃小次小不違はあ人乃
身のむあまらるぢり
事まらまらとてまら小次生

いらは目付字といふと
ありそれいらは四十七
字といふにふりも
目とつけ字といは
にほへとし物だんあり
わらわらみみてたとい
の字にくまみとあり
も又いらの字にて漢
とありらもそのあり
わらまららとてり
又右し字とらひもせす
くしとみてまもひの
くも乃字うまこへせ
字とありともそのあり
とれまらとてり又中後

右とわいしとくもあ人のん
うはゆくあて洗て

九方是下ら天四十一る六分余
これらと是釣下ら坪教何
右方是下ら天六十一る六分余
九是下ら 右是下ら 下是下ら二
釣九るは分余 坪教何六拾坪
九方是下ら天六拾四る
これらと是釣下ら坪教何
右方是下ら天九拾八る
九是下ら 右是下ら十八る

予が魂筆整うり
時分難教知分集と
是之教をとるゆ
一に名意の教大に
て横矢せり門非
も取くえたるは
うらうらたるは
以後折々及古の
にふれしはゆき
まご若くはまご
ゆたへんてまご
まごは袖小中
まごは袖小中
まごは袖小中
まごは袖小中

の介小曆傳と改
抑意とせむと
抑意のやうにい
方くとたふし
漢截噴差句股
和活と化て女
路入青くも
の細老曆と本
光由の卷幼記
とささし
くくくくくく

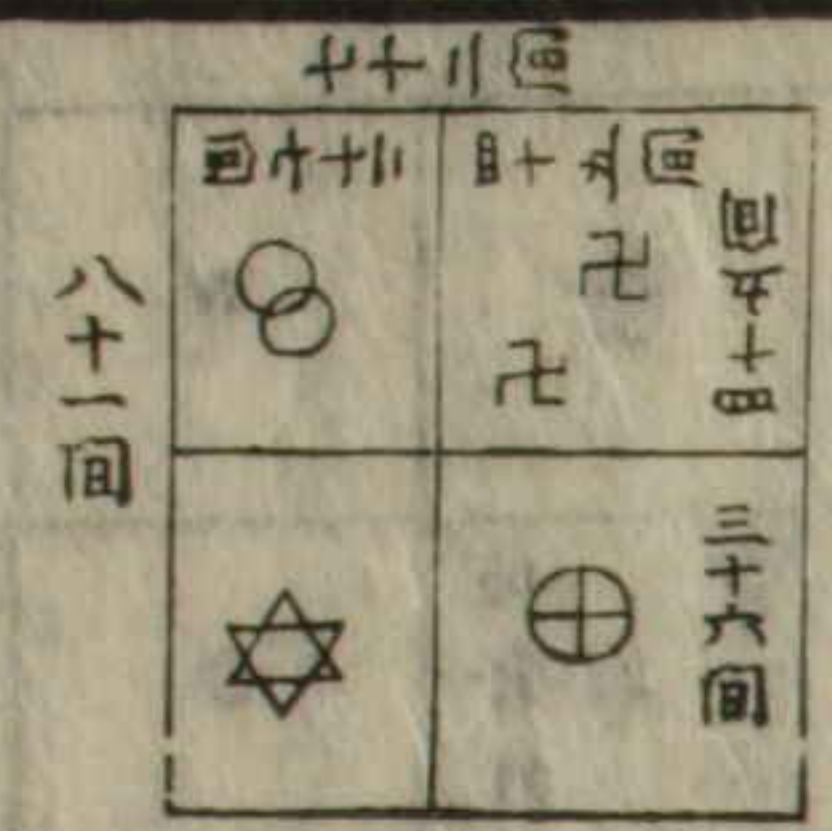
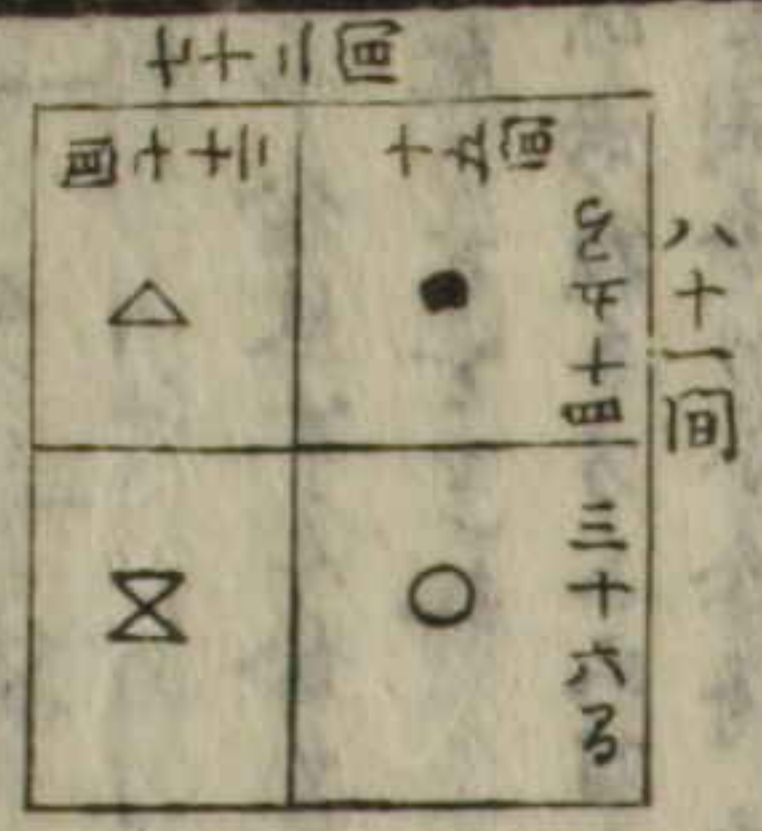
もりゆくか
蒐もすや
まごは袖小中
まごは袖小中
まごは袖小中
まごは袖小中
まごは袖小中
まごは袖小中
まごは袖小中
まごは袖小中

曆の事先
てやらん
まごは袖小中
まごは袖小中
まごは袖小中
まごは袖小中
まごは袖小中
まごは袖小中
まごは袖小中
まごは袖小中

被好とくしとくしとくし
予が言書に七種又言書
とくしとくしとくし被見の
とくしとくしとくしとくし
とくしとくしとくしとくし

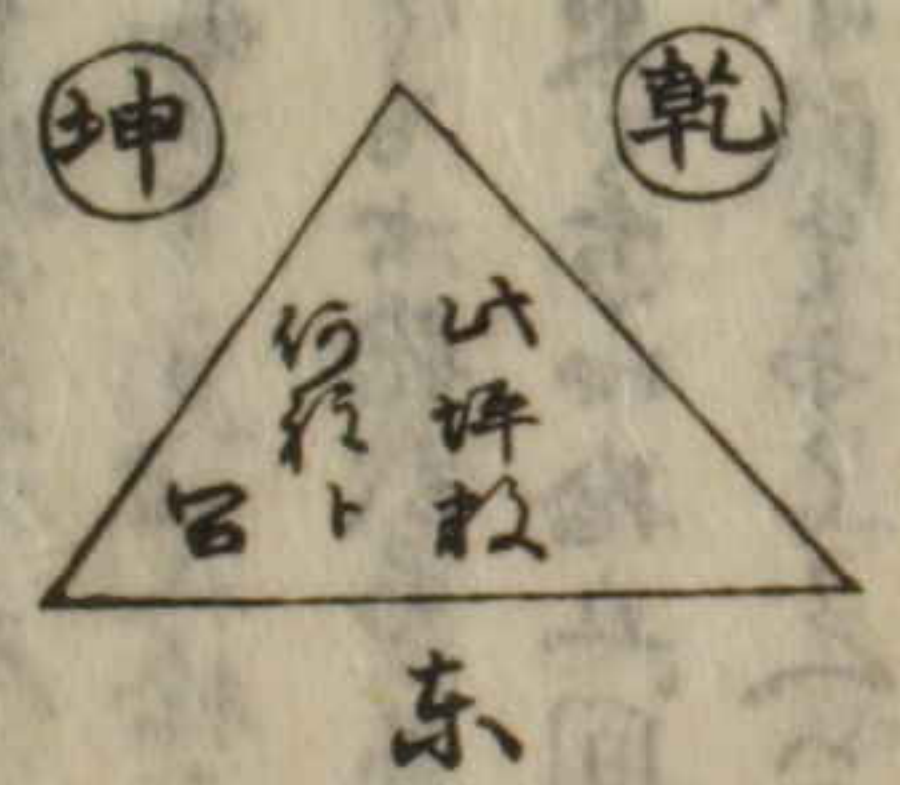
法我能成わくくや 言云我
い道下とくしとくし法我分のうくは
序小物とくしとくしとくしとくし
人夫教付とくしとくしとくしとくし
ゆ一小く結しとくしとくしとくし
今予愚法とくしとくしとくしとくし
を先由の源心ゆやうとくしとくし
去我悟とくしとくしとくしとくし
うらぐゆ一小厚好とくしとくしとくし
考知負的うらとくしとくしとくし
予が愚法小眼と付ん先由れ知智とて

七十二ると八十一る魚合
き倍小る漸とて固也



積股勾

古田光由好テ云



東いぬい打廻二方ん
八拾をらる
いぬいの方廣と旨
ゆら申方廣と旨
又東方も何れを
東のつ一申打廻二方
大七拾貳るら
坪教四百八十六坪 東方四十五る
乾方三拾六回 坤方二十七る
中子言

同平して三和と知家九二死を
曹洞徒少

△	⊕	●
⊗	此合致 此合致 三合致	○
卍	☆	∞

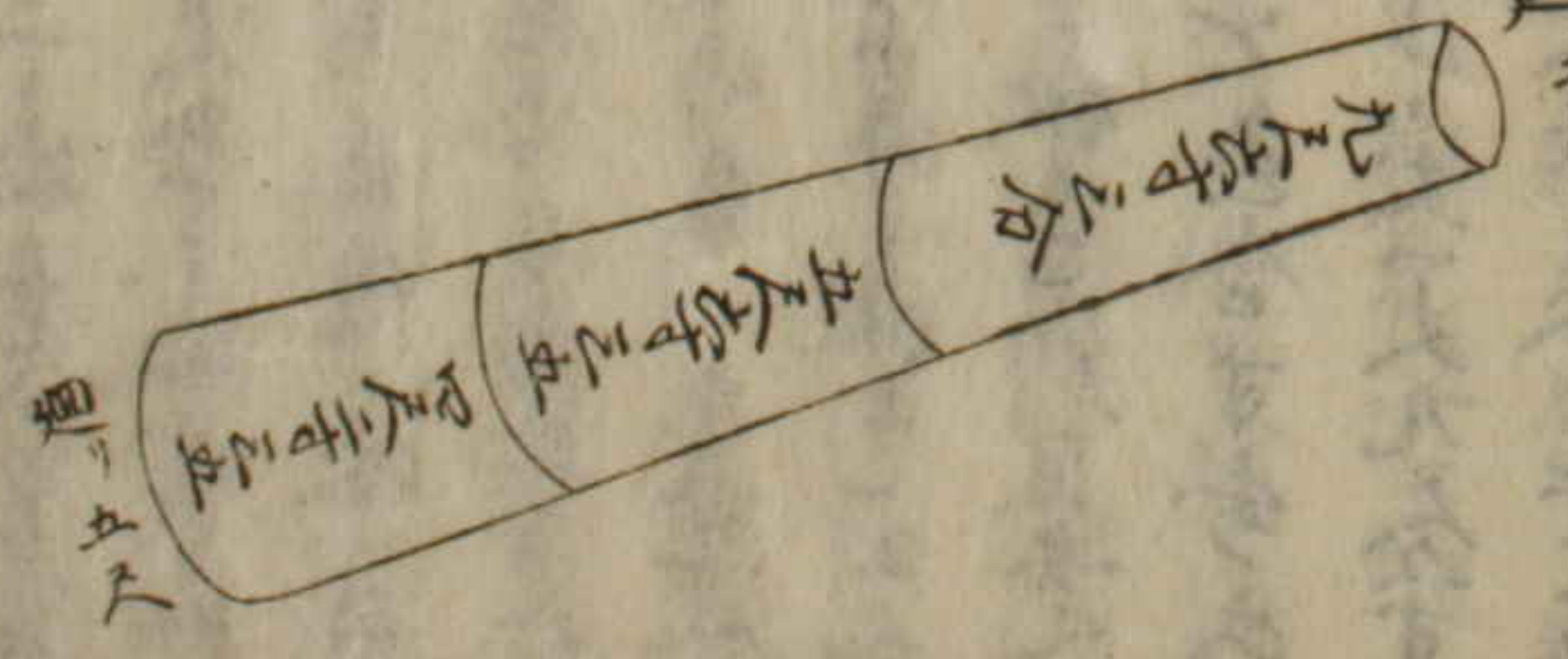
石合致と合てき倍の
配りありと知
此合致と合てき倍の
配りありと知
此合致と合てき倍の
配りありと知

法は八拾をるに七拾をるとけは二倍
なりて万ふ六百六拾四坪と成は二倍半
法小陰と百。八るは内八拾をるに法
或拾七るは是坤の方の廣と也 又右
百。八るは角七拾をるに法三拾六るは
是乾の方の廣と也かくのどく二方と
知とすは八拾をるに内二十六るに成
も七拾をるに角七拾をるにありた
東方は拾五間と入一十也坪投と知
小陰生中と入七拾七るに三拾六るは
是或の小別と知なり

本書の好く書物と云は
二るはよく好む也加一は小
六るは再自周して坪二百
十六坪也 又是二るは
再自周して坪七十七坪
は減之由余百八十九
坪と云はして六十三坪
なり是に在る七坪
と云は得は九十坪
おまの同法は小陰
得は四るは分八一四一三坪内
是の二るは減止余一るは
分八一四一三坪末口も人
分五るはもなり尺小見
なりはるは五と云はては知

積 截 欠

古田光由好ら
今唐木は長二間
半口は四り五尺と
すなり式尺五寸と
代根十枚なりと人
はくは中と云は人
号分はさうては時
半口は何れもさ
はさるは何れもさ
半口は 如下圖
法は半口は四り五尺と内末口は四り



六九五五六不也

此則定高式丈八尺九寸三合
他高之丈四尺一寸九分七厘也

二絶四也列法云他九角
の高付の絶合の絶身あり

①松八十本 ②松四十本 ③
栗百八十本 ④松本七本
各うけ合く本敷六千四百
八十万本と敷

⑤栗百本 ⑥松九十本
⑦松百本 ⑧松八十本
各を合て本敷二百二十六
万本と敷是と云く内より
減去余六千四百拾四万

本是をよりり別月安あり

①松式費七百九拾目と魚
是に ②松百本 ③松九拾

本 ④栗百本 各かけく

⑤一、限三百六十一万六千八百
四拾費目と敷 ⑥限二費

三百本式本と魚是に

⑦松八十本 ⑧松九十本

⑨栗百本 各掛て

⑩二、限式百万。〇
六千式百〇八十費目也

⑪限式費九百本二本と
魚是に ⑫栗百本

⑬松四十本 ⑭松八十本 各
掛て ⑮松七十本 四万千

二 絶 二 絶

松九拾本とけ八拾四万と敷又二箇
の松百本式拾本とけ六千四百本
敷内と云く三百式拾六万と引
減く六千四百拾四万と云く是
と別松本本の代限知也扱是小
二箇の松四拾本とけ是は式由力
漲内と引減くと二箇の松百千
本と云く松本本の代と知是二箇
の松八十本とけ是は一箇の松由力
減と一箇の松本五十本も別本の本二本
代と知是二箇の松本七本と敷是は

四箇の松の内引減くと四箇の栗百本
本はしより栗本本の代限と知也

右田光由好テ曰

松本式本

松本四本

松本五本

松本五本

松本五本

松本四本

松本三本

松本六本

三色限合式百式十目

三色限合式百七十六本

三色限合式百目

八百八十貫目しかり ④濃
 四百十九貫と重きに ③粟
 百五十貫 ②板四十貫 ①板
 八十貫各掛て ①はノ浪
 二十万。千二百二十貫目と板
 板 ④は合段二口合口百三十
 五万七千七百二十八貫目也
 又 ③は合段二口合二百二十
 万。七千二百二十八貫目也
 多し内少と減す未成百十
 八万。四百貫目内定定して
 用安六千四百四十四万と
 ①②③④と除得三拾六貫
 是をいれら捨き中の代知
 かり ④はノ浪也

を捨板板とあしき中付何行と
 予是を松本を付 浪三拾目
 板本を付 浪拾八貫
 板本を付 浪貳拾五
 法と給く捨二中一中の板三中と重
 中の捨五中中よりき中貳分と重
 と給く板四中の内より引給て二中八分
 是列 給く捨貳中一中の板四中と重
 中の捨五中中よりき中六分と重
 是と給く板五中内より引給て
 二中四分わり板中の浪一給くいの本

三絶三絶ハ二絶二絶小落ス
 多きに重連を懸て絶合
 と分ハ終らりしとこの也
 絶もその毎にちとちと
 ことこと考え合はる
 絶の術はとこの絶古
 田氏給く三絶三絶と云る
 中一絶小く白く絶え
 かりにちとちと重連と云る
 かりとちとちと重連と云る
 又列小絶合の時おに
 より引給て三中六分と云る中
 絶と云るに絶重也
 未 ④の本三中 板六中
 ③の本三中 板六中
 ②の本三中 板六中
 ①の本三中 板六中

貳中とけ中の捨五中と云る百十
 と重きと給く浪一内より引給て百拾
 八分と重きと給く浪一内より引給て
 二中四分わり板中の浪一給くいの本
 中一絶小く白く絶え
 かりにちとちと重連と云る
 かりとちとちと重連と云る
 又列小絶合の時おに
 より引給て三中六分と云る中
 絶と云るに絶重也
 未 ④の本三中 板六中
 ③の本三中 板六中
 ②の本三中 板六中
 ①の本三中 板六中

- ① 合布二端 代八百十女
- ② 合布十端 代七百十女
- ③ 合布二十端 代六百十女

二 紐 三 色

又初き紐と終き紐の由ふ
 表に引繰り
 ① 合布二端 代八百十女
 ② 合布十端 代七百十女
 ③ 合布二十端 代六百十女
 中を紐より引繰り
 ① 合布二端 代八百十女
 ② 合布十端 代七百十女
 ③ 合布二十端 代六百十女

ぬの式端 ぬのちきとけか
 け代合四百式拾女下
 ① 合布二端 代八百十女
 ② 合布十端 代七百十女
 ③ 合布二十端 代六百十女

右ぬのさぬさや香し虫後何れと

予そらぬのき端三片 浪廿四女下
 ① 合布二端 代八百十女
 ② 合布十端 代七百十女
 ③ 合布二十端 代六百十女
 法とぬのさぬさと終り浪八拾女
 六分一け式百六十五女八分一
 列二終りさぬ式と終り代浪式百

又初き紐と終き紐の由ふ
 表に引繰り
 ① 合布二端 代八百十女
 ② 合布十端 代七百十女
 ③ 合布二十端 代六百十女
 中を紐より引繰り
 ① 合布二端 代八百十女
 ② 合布十端 代七百十女
 ③ 合布二十端 代六百十女

七拾八女下 小け五百五拾七女
 以内は右き式百六拾女八トと引
 繰り式百九拾女式分三と中
 けぬの式とんさけ五百八拾式女
 四トと女列又中の代浪四百式
 拾女女下とさぬさに終りさぬ
 三ひささけ八百四拾式女八トと女
 先に又始りぬの八端さけ六女
 七百四拾式女下とさぬさ以内と
 右き五百八拾式女下とひささけ
 六女百六拾女わりのさとさぬさ

二トとわら

布の好みの好く取らるる
 一米式石大豆三石麦四石
 粟下時いつとも代紙百目
 一石五斗より細くも米大豆
 三石三斗大豆に麦三石三斗
 麦小米三石三斗といつとも
 百目つより落しの中皮と白
 米三石三斗 三拾五斗
 一石八斗一石三斗 二拾八斗
 麦三石三斗 十斗
 粥と先二紙三斗に紙合
 三斗とこしむ也

① 米二石 代紙百目
 大豆一石

② 大豆三石 代紙百目
 麦三石

③ 麦四石 代紙百目
 米三石

石④ 合米二石大豆
 四石麦三石代紙百目

盈 胸 法

又⑤ 合米三石大豆
 二石麦三石代紙二百目
 麦又三斗と同日紙と米三斗
 大豆三石と代紙二百目と紙
 麦三斗と米三斗と大豆三斗
 斗紙の四十斗より紙あり
 紙と麦三石にけりて入
 一斗の紙あり紙とけりて入
 △米三石八斗大豆三石四斗

増補新抄四

こて好くこぬ三斗一申のぬの式
 せんとけは小又終乃とやきき
 とけ六と列にまこたぐりぬ
 の八とん一申のさや口きとけは
 に又終乃とぬ二斗とけ六拾四
 とけはにぬと六ととくと七拾
 とけはとくととくと六と黄百六
 拾ととれいさやききぬの代と和
 たりとぬ布の代と和武紙
 色ぬの術と日意なるぬと略に

古田之由好云

今具是武紙とよる五斗と賣く小
 荷拾三斗かよんとききば小判五
 両あり又具是を傾し小荷拾一
 斗賣くよる三斗かよんとききば適是
 也又よる六斗とよる小荷拾八斗と賣
 て是又紙とよるとよるとききば小
 判拾とよる米一斗ありありと
 是よる小荷拾とよるとと
 何とつくととと

三

正の如く米大豆の量は倍なり
麦は九五石代浪四百目と
粒も四百目とす米石より
麦二石代拾五石と知也
右等安く測りてせしり
凡あつてついでとも或は
師付よりせ或は古籍
とていふありていふあり
あつてついでとも或は
亦もつては希也知也
此増成は米と記す
是今のものより米一石と
上の米二石とれ一石と米
より右一石の倍とす之
粒も米の二石とすは中か

豆は八石代は武百石と
是と右一石と小指引
きと右一石は倍とす
引拂はるり大豆の量
是れ也一石と右一石と
麦は右の量に八石と倍
をより也 粒も四百目と
粒百目なりは四百目と
麦八石と代は倍とす
是と右一石と小指引
扱又中と大豆と石と今
よりとるれ一石とつて米
とすは大豆と石と麦と十
石と代は三百石とつて
と大豆と石とつて倍とす

今人あると今人の中今六あつて
殊今をあつて物とす物
上馬十四疋小荷結四疋と是七あ
今をあ不足也 扱結とすは六疋
小荷結八疋と是五あ不足今とあ
と一とすは物二用て二とすは物と集
之結と色よふとすは時
① 上る六疋小荷結九疋と是六今とあ
② 上る三疋小荷結九疋と是四今とあ
③ 上る十四疋小荷結四疋と是七今とあ
如しは中時後の上る十四疋と他の

小荷結八疋とは後の小荷結四疋と
より上る武拾八疋と扱は内物の上る六
疋と引結と上る武拾武疋と又後を
是七疋と物乃小荷結八疋より後
の小荷結四疋とよりは是十四疋
扱は内物の量と是八引結と是九
扱わり又後の今をあと結は小荷結
八疋より後の小荷結四疋とより
今武あは是とよりは今とあは
引結と今をあは引結と又後の上る拾
四疋とは後の小荷結九疋とよりは後小荷結

引誘り九百八十二誘あり
是と云く法二十六よれい
赤籠一組四分一誘り
十七誘と知る是に四と分
六十八誘と知る

黒ノ四分一八十三誘
白ノ四分一八十一誘

方 基

本書に盈朒別法云

初賣 色是二枚 實小者十三
上より足 竹全五

中賣 小者五正 實上三正
色是一枚 遠是心

後賣 上より六正 實色是六枚
小者五八正 不足二枚

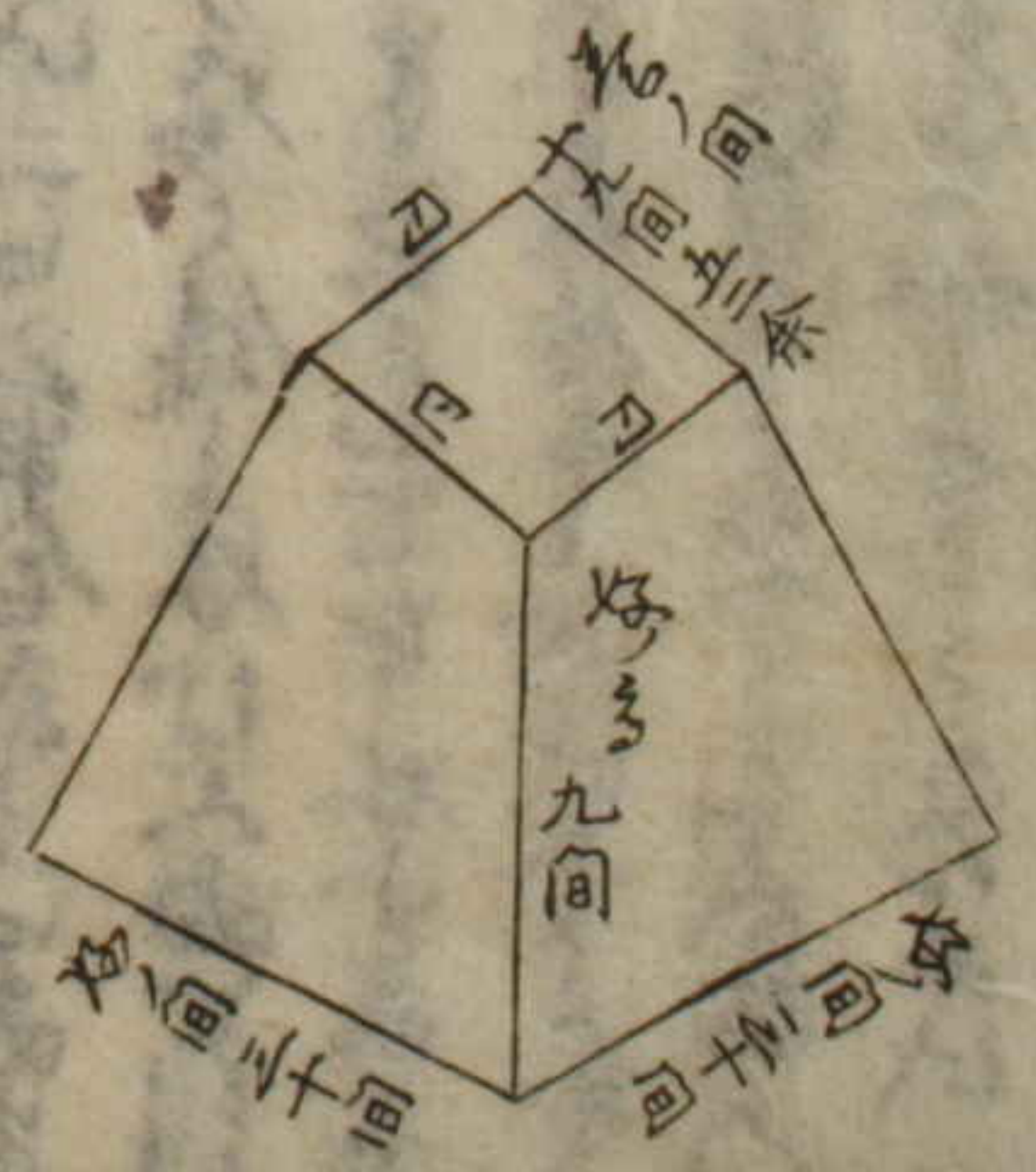
扱束し色是二枚より一組
と云れは色是五枚より一
正二分小者五正五分代
今五分より色より月と初
色是二枚小者五正五分
甲下小者五正五分代を
きぬ二枚一枚一色りと初
組より引ききり時止るを加
ふ小者五と代金引

扱 上より七正四分 全五分八分
小者五九正八

扱又云くより付中のも
是一枚より色は上馬を止
二分小者五正五分代金
五分と一枚一通と中の組

と云くも下三誘り四方より九誘り
と云くと集時より上より度より九誘り

平書云



法云く五千六百坪と云くは二万法
六と云く二万二千六百坪と云くは
九と云く二万七千二百坪と云くは

と云くは又下度と云くは拾らると一倍
六拾らると色は小三拾らると四千八百
坪と云くはと云くはより引誘り九百
三拾らると五分を色と云くはと云くは
九百六拾らると六分よりと云くはと云くは
と云くは下と云くは度と云くは三十と云くは
と云くは平法小法と云くは上の度と云くは
右田先由好云

上廻り口拾らるとの廻り百式拾らると
六と云くは時小けと云くはと云くは千式百坪
四と云くは時と云くはと云くは切下と云くは

引小着をいへる代金も
さへて

と馬一疋八分
小着を三疋分
令五分

右二疋二又うて神の
よる七疋四分と後の小
着を二疋六分にくけ十九疋
二分なりと又後のと馬
一疋八分と神小着九
疋うけ十七疋とトウと又
と右の内より引渡り△を疋六
分お法之 列神のよると
後の令に無はあは口と
後のよるに神の令とけ

基

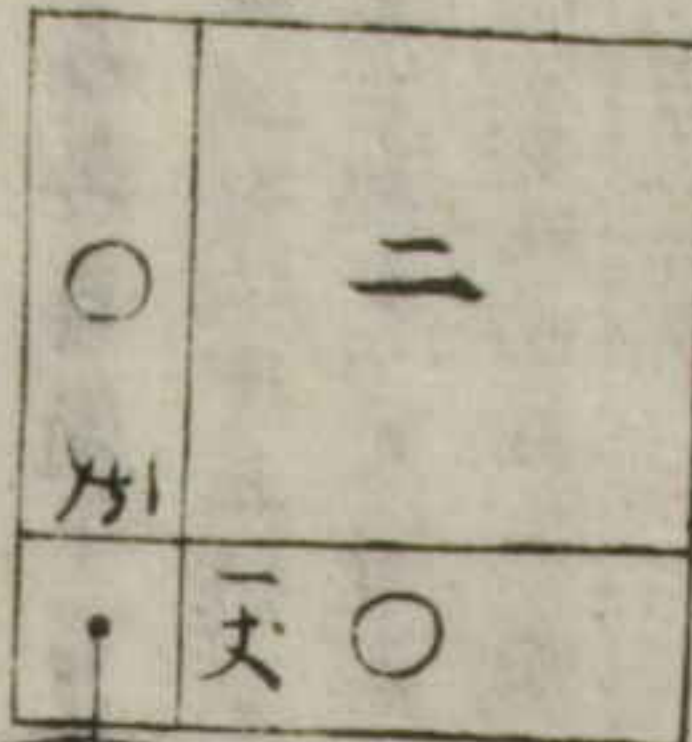
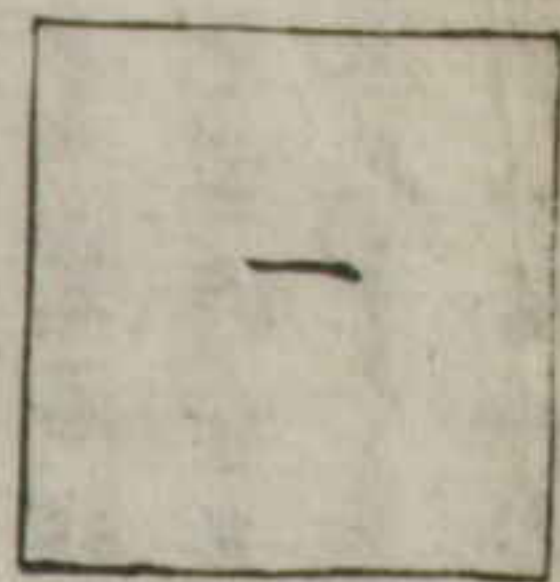
とあは口とあは内より
はあは口と引渡り△をあは
とけ法△を疋六分してこれ
令をあは口とあは内より一
疋の代わり又と神小着を
と後の令うけあは八八疋
又後の小着をと神令よ
うけ九あ八八とあは内より
くあは八と引渡り△をあは
常法△を疋六分してこれ
とる一疋の代令二あは口と
けり
方差之別法とく
右五千六百坪と二因して
を万六千八百坪とあはと

又れ、お同切口の指返り



法とてしり四り百疋拾るに
口拾ると引渡り八拾ると
あるとしてしり一二三と
上四り口拾るとしり一二
のびとらとあ 叔下の四り百疋とあ

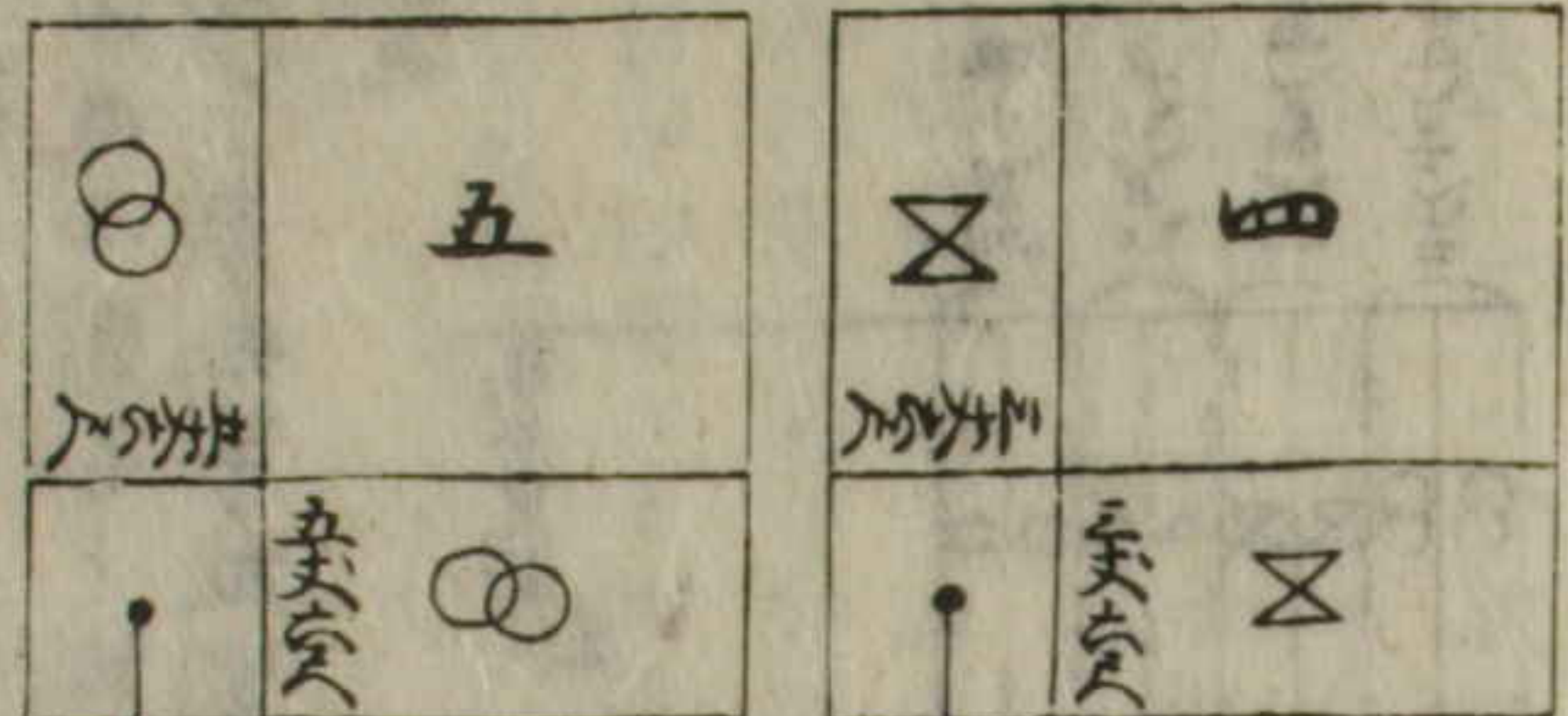
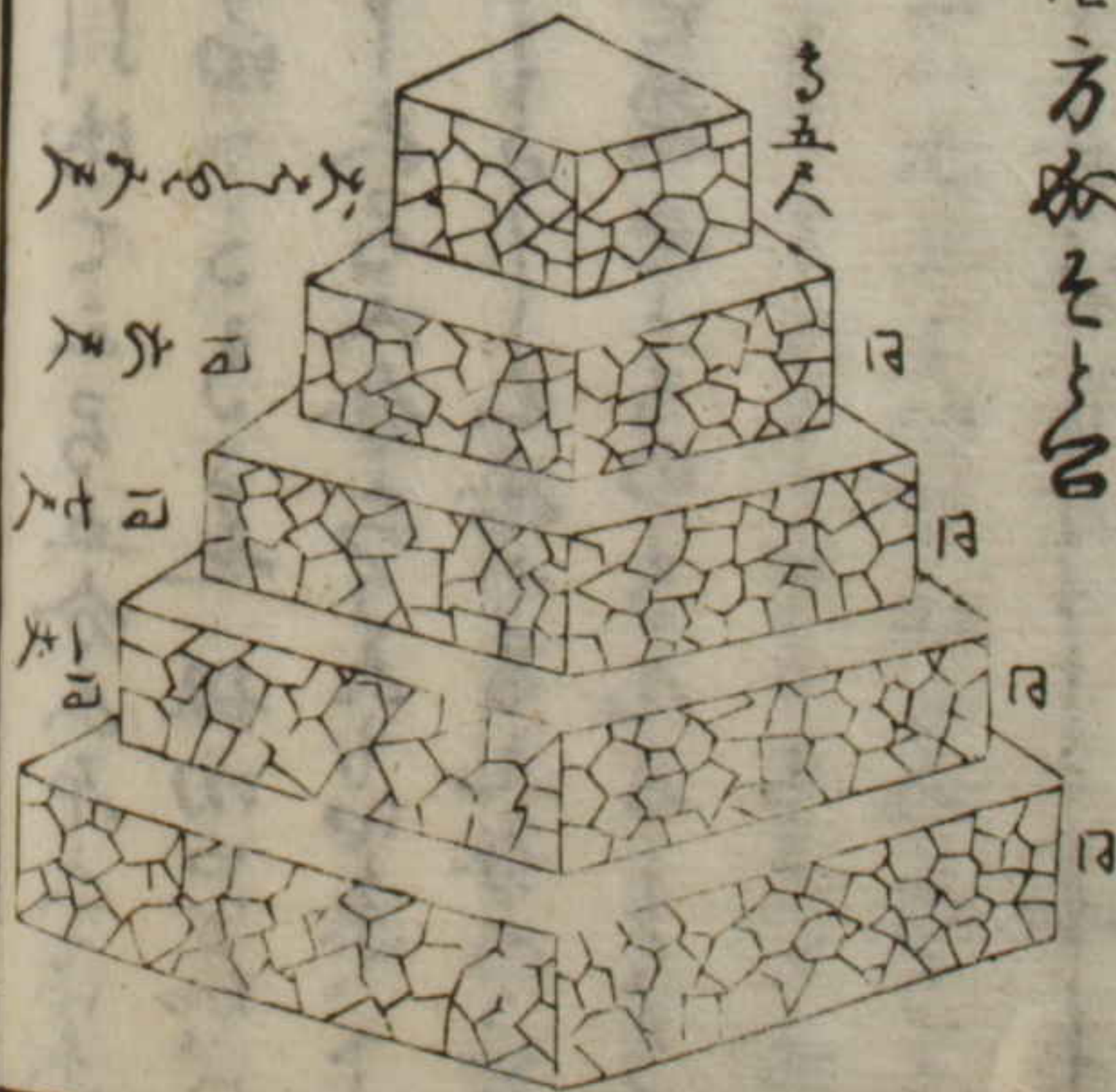
廻法二一六二とてしり指返二十七疋九
分入やとあはとけ令千四百口拾疋
〇二り〇二五とあはとてしり九と九と
無准法の二とてしり千二百疋十坪
〇六分〇七も八系とあはと別目也
列とてしり口拾るとあ廻法二一六
二とてしり指返拾疋と六分うとあ
とてしり令百六拾疋〇二疋二毛入
とあはとてしり口の二とてしり
准法二とてしり百六拾坪〇二り二
も入とあ列とあはと千二百坪とあはと九



築石積

八段積上ナトより二段目の丈を以て廣
き丈三段目の七尺四段目の六尺八段
目の五尺九段目より廣さとしてこの廣さ
と何れ四方敷ると言

松加同
上ノ二段 五尺
目三段
目四段
目五段
何れ敷ると



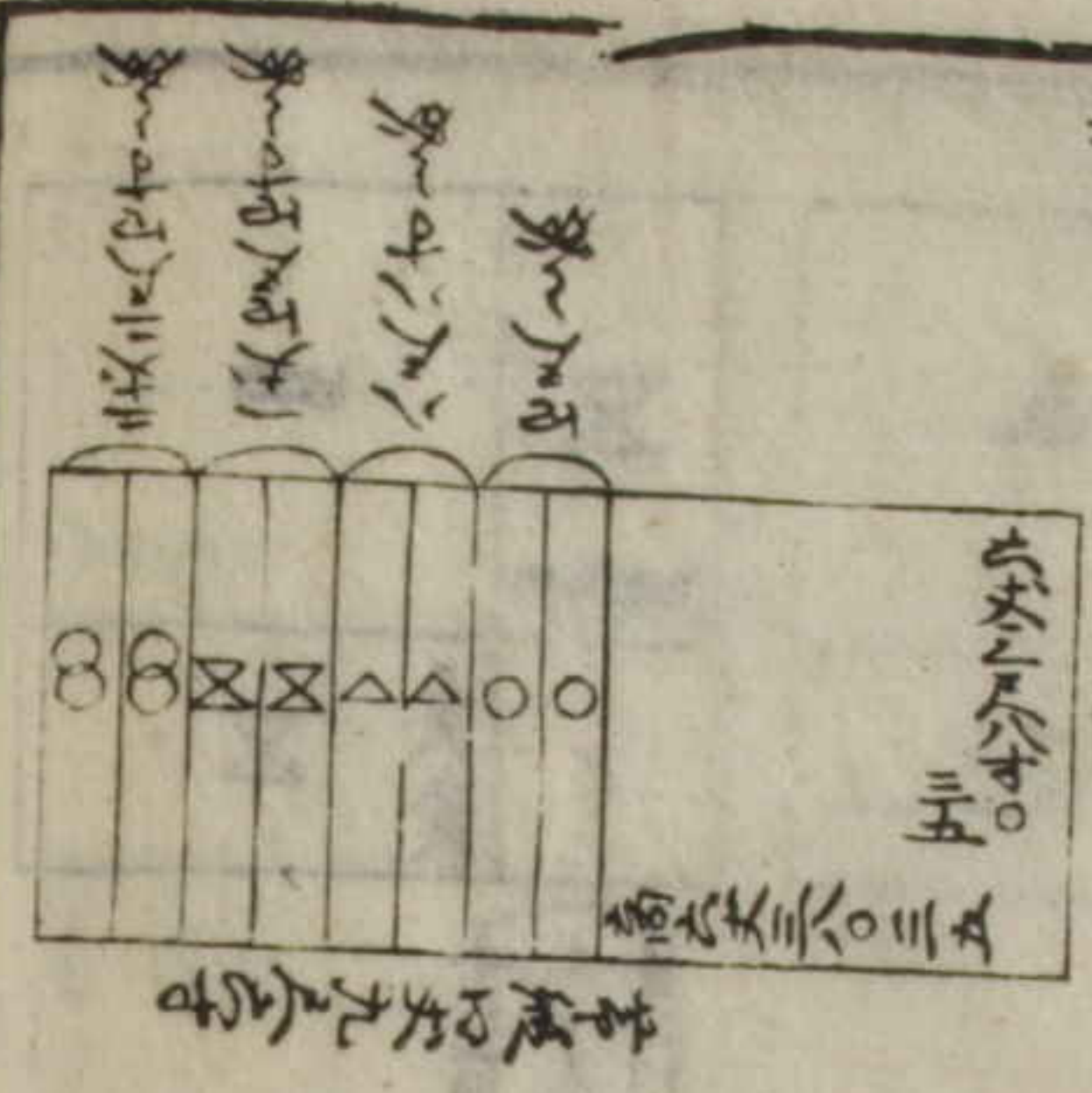
千二百
九十六
歩引

三千百
二十歩
引

右隅の赤と引おぼゆる赤
とありし列の赤
取又中書に拾二丈四尺と

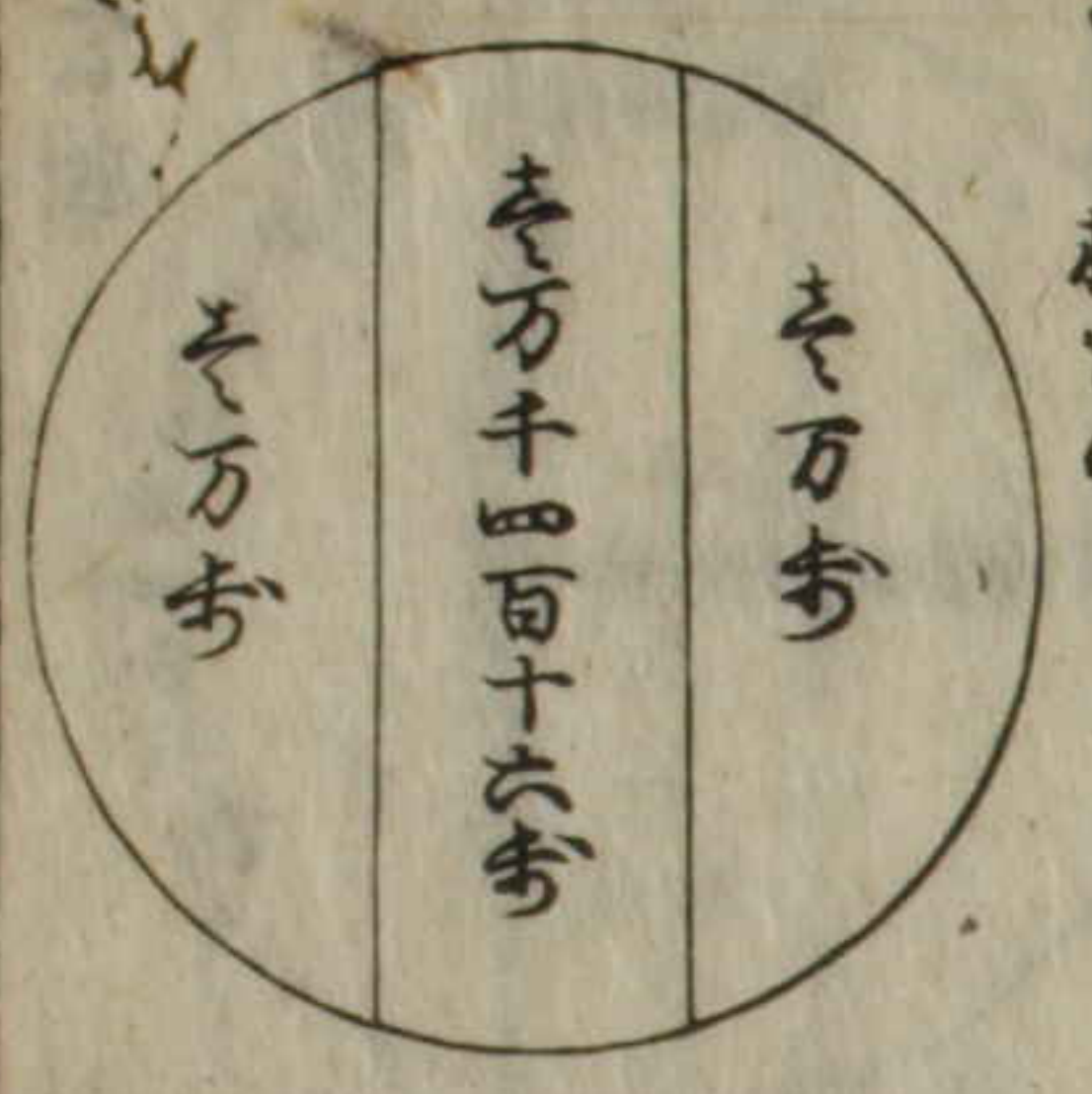
上之段方 六丈二尺八寸。二重六毛
二段目方 七丈二尺八寸。二重六毛
三段目方 八丈五尺八寸。二重六毛
四段目方 九丈九尺八寸。二重六毛
八段目方 十一丈九尺八寸。二重六毛
法と七百六十坪と並是を坪と尺
坪法と百七拾四坪六分なり尺と並尺
坪法と十萬。八千九百六十八坪七分なり尺
是とも尺とより尺歩は万千百半
三赤七分なり尺列とより二段目の
丈より尺とれたるを尺と知

八咫のち式式又尺と別
と化してしゆとて三時
犬とてた右とてき倍小
また倍小別と相乗して
一とてしゆ也半倍半系
也也



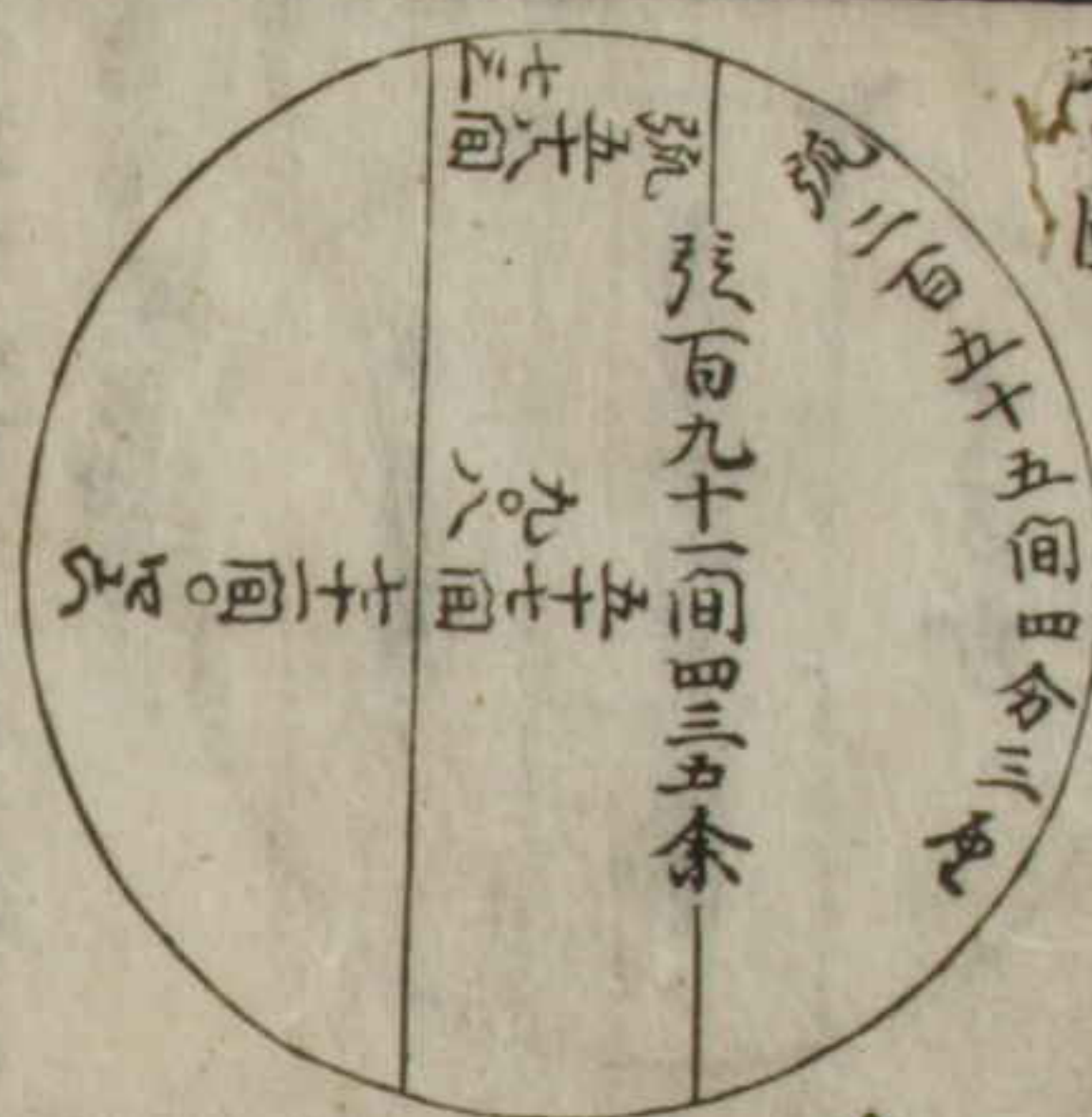
魚合百歩と又上より二倍はぬ
とて六尺とた右とてき丈二尺と
は是小上のき丈とて式丈二尺と
是と魚合百八十歩と又上より
四咫りの丈を七尺とた右とてき丈四
尺と知得是小上の式丈式尺と加て
之丈六尺と又是と魚合千式百九十歩
と又上より八咫目の丈を八尺とて
き丈とた右とて式丈と知得上の丈
六尺と加一五丈六尺とた右とて魚合
二千百二拾歩と又扱け口の歩敷

歩敷と幸い申式口付也
とてさうと有敷と人法斗
いふ及小化ゆと也歩法七八五
也と別列して好ていさ
今佳式百と半歩地と
也當九尺いさ方歩つ中い
き万千四百十六歩小分り時
名も敷と也



魚合五千。拾六歩と是と右と四万千
百九拾三歩七分八厘と内より引替て歩
二万六小百七拾七歩七分八厘と是と五
咫とてより七千式百二拾五歩八分なりと
又是と又と魚扱き丈と式丈式尺
と二丈六尺と二丈六尺魚合拾式丈
四尺と又是と八咫のちと式丈五尺と
てより四丈九尺六寸と又是と半倍
小用右と又と開平法と倍と上の
四方と知得とて倍のちとてありあり
次身小くと下と倍のちと知得と也

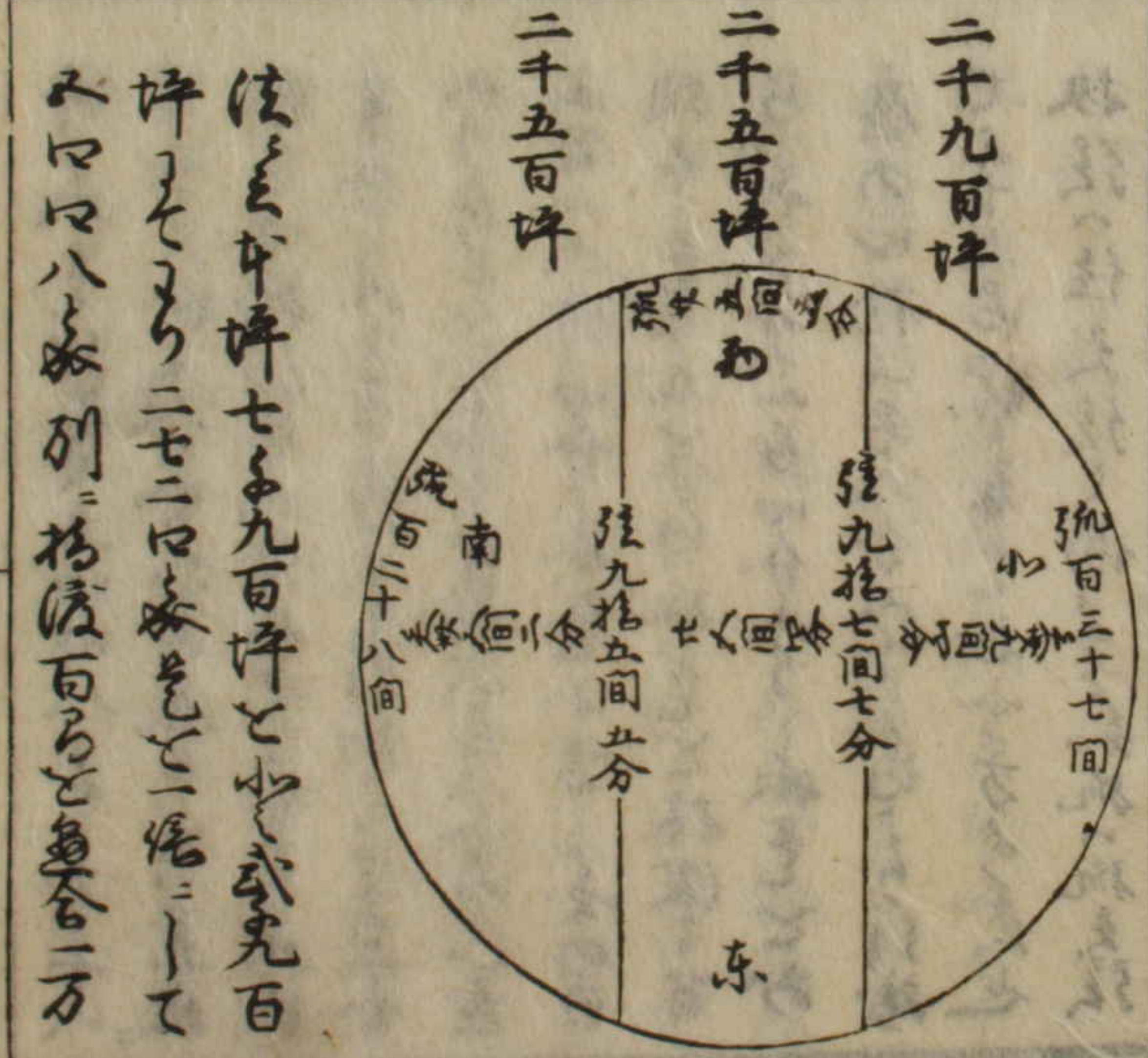
塔圖



漸々好中ノ歩数と方千四百十
 六歩と云々蓋法連成百ると云
 由法定と一抄除く公一と云十
 ると云云是と云弦法夫弦
 漸々と得三弦半の三空蓋法
 歩法と得百五歩と云五列分

夫三ろ一七八四二と弦六十
 と相乗して得百八十八歩七
 一以内よりを歩数と
 概止余又十三歩一分倍
 之して百六歩二分定
 不加之以法二百餘定
 △定高五十一寸 定二
 千五百。二十二歩二分五
 又以法一抄除く公一と云
 七ると云云是と云小初もラ加
 伏小又十七ると云弦法夫弦
 小して得三弦半の三空蓋法
 歩法と得百五歩と云五列分
 一三八と云二五列分の夫と云
 一分七二と云弦又十七ると云

積截



法と云坪七千九百坪と云或先百
 坪と云より二七二と云是と云倍二一
 又口八と云列積法百ると云合二万

古田光由好云

括法百間と云と云二人一と云後入時
 寺人の式千九百坪寺人の式千六百坪
 寺人の式千六百坪小より夫の廣と
 弦と云と何れそ又中の矢の廣と
 弦と云とどのく何れと

北加同小ノ弦 南ノ弦 西東弦
 各何れと云

坪七十九百坪

予と云と云

